

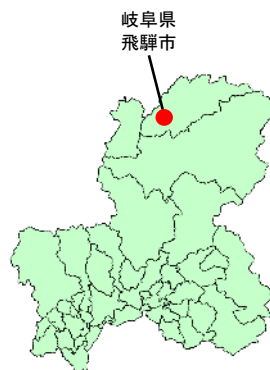
飛騨産直市そやな（岐阜県飛騨市）

飛騨の地域農業と生産者のコミュニティ～生産者が輝く舞台を創る～

背景

「飛騨産直市そやな」（以下「そやな」という。）がある飛騨市は、岐阜県の最北部に位置し、総面積の93%を森林が占め、河川に沿って集落と農地が点在する中山間地で、標高は200mから900mと高低差が極めて大きく、気温も年間を通じて寒暖差が大きい。こうした地域特性を生かした多種多様な農畜産物が生産されている。

そやなは、その前身となる朝開町農産物直売所の施設が老朽化したことに伴い移転・建替を行ったもので、地場産市場ひだ合同会社が管理・運営をしており、令和4年7月にオープンした。そやなのオープンに向けては、地域特性を活かした多種多様な農畜産物が出荷されるものの、直売所の運営体制の構築、生産者や加工品製造業者などの出荷会員（以下「会員」という。）とのコミュニティ形成に課題があったため、食品流通やマーケティングに精通した人材を店長として新たに迎え、運営者と会員が共有するコンセプトに「飛騨いち舞台～すべての生産者が主人公～」を掲げた。



取組概要

会員のこだわりや商品の特徴、入荷情報などをいち早くSNSで発信することにより、会員の思いを消費者に直接届けている。また、イベントの開催や、飲食店・ホテルとのコラボ商品の開発にも取り組んでおり、ほうれん草などを生産・出荷している会員とベーカリーがコラボしたほうれん草入りのあんぱんなどの新商品が異業種間の協働により誕生している。さらに、店舗内で会員と消費者が参加して行う体験型ワークショップでは、会員が自らの商品をPRするとともに、消費者の意見や要望を直接聞く機会なども設け、双方の交流を実現している。これらの取り組みにより、そやなの魅力を高め、集客力の向上を図ることで、会員の生産意欲や所得の向上に寄与している。

そやなでは、出荷量が少量、不安定な農産物等でも消費者ニーズ等を踏まえて積極的に受け入れており、会員が新しい作物の栽培にチャレンジしやすい環境が提供されることとなり、新規会員や新規就農者の増加、さらに耕作放棄地の拡大抑制に寄与している。

地元の給食センターへ会員が生産する野菜を安定的に納品するとともに、会員が小学校に出向いて出前授業を実施することで、小中学生に飛騨市産の魅力を伝え、地元産への誇りを育む取り組みを行っている。

そやながオープンし約3年しか経過していないが、会員は135名から160名に増加し、売上も旧直売所と比べて約3倍に増加している。また、短時間勤務やシフト制を導入することで多様な人材が働きやすい環境を整備しており、店長（愛称：トマト店長）とスタッフの約8割を占める女性の視点とアイデアを活かした店舗運営が行われている。

写真で見る団体の取り組み



そやなの外観



そやなのトマト店長



各種イベントの開催・SNSを活用したPR



ほうれん草生産者とベーカリーのコラボ商品



新たにイチゴ生産に挑戦した会員のハウス



会員による出前授業の様子